



④ 「自閉スペクトラム症(ASD)」と「ADSD)」について宮本先生が詳しく説明して下さい、保護観察における事例も沢山挙げて下さい、とても分かりやすく勉強になりました。

現在は知的障害のない自閉症が多いこと、0か1の発想で話が通じにくいこと、限定された嫌な刺激を受けるとパニックになること、等、知っていてこそ落ち着いて相手に向き合っていけることが分かりました。

こちらが話したことが思っている意味で通じないことがあることもふまえて、「掛け違いの会話」にも気を付け、沢山の心掛けと気遣い、きちんと筋道を立てていちから丁寧に話してあげることの必要性を学びました。同時に、その難しさも感じました。

⑤ 大変勉強になるお話でした

私も、長い説明は聞いていない(嫌い?)ですし

代名詞「それ」「あれ」ではわからないこともあります

発達障害の方たちだと余計に感じる事だと思います

担当する対象者が発達障害(知的障害を含めて)であれば

一言一言大切に話をしていきたいと感じました

⑥ オンラインであるがゆえに、適格・正確な時間配分、休憩での体操、講師の表情・説明画面が鮮明であった。しかも、具体的、わかりやすく、体験談も含めた、丁寧な講演であった。とても勉強になりました。第4回オンライン自主研修を楽しみにしております。

⑦ 今回の講演での重要と思われた点をいくつか感想を述べる。一つは発達障害のとらえ方の考え方(概念)の変化、変更である。広汎性発達障害やアスペルガーなどそれぞれ個としてとらえられていたが、自閉スペクトラム症という考え方に大きく一つにくくられている。注目すべきはスペクトラムという点であろう。特にこのスペクトラムという考え方は、我々みんな多少なりともそのような症状を有している場合もあつたり、私も一つぐらいは自閉スペクトラムの症状にあてはまる場合もあつたり、はっきりとした境界はなかつたり、というふうに理解した。

ではその対応はどうしたら良いのかというと講演でも詳しく説明されているがなかなか難しい。相当な時間をかけての訓練が必要であると感じた。とりあえずざっと理解してあとはノートを横に置きながら対象者との面談をするのか。特性に応じた対応例としては、本人だけでなく家族に接する時も同じ傾向がある場合が多いから配慮や工夫をすとか、言葉を省略しないで会話を組み立てるとか、目の前でメモをしながら説明するとか、することの教示とか、いろいろあるわけであるが、講演のなかで紹介された技術(配慮)の実践はかなり難しいと思う。問題行動への対応も同様である。

特性に応じた対応ができるように知識と訓練が必要であると感じた。